



お問い合わせ

Nov 2020

立教セカンドステージ大学(RSSC)事務室

E-mail: rssc@ml.rikkyo.ac.jp TEL: 03-3985-4672

## 立教大学のリベラルアーツ教育

RSSC 教員  
立教大学名誉教授 佐々木 一也



リベラルアーツ (liberal arts, 自由学芸) は中世ヨーロッパの大学で神学や法学、医学の専門分野の他に学ぶべきとされた科目の総称です。それは社会的地位や財産、権力などに左右されない知性を育成するためのもので、算術、音楽、幾何、天文、文法、修辞、弁論の7つの代表的分野がありました。立教大学は10学部と15大学院研究科を擁する専門性の強い大学ですが、アメリカ人宣教師 C.M.ウィリアムズによって1875年に創立されて以来一貫してリベラルアーツ教育に力を注いできた伝統があります。

現在では全学共通カリキュラム運営センターを拠点に、科目編成を現代に合せ、市民にとって真に力となる専門性は他分野と連携可能になってこそ機能するとの理念の下に、全教員がリベラルアーツ教育に当たるといふ全国でも希な大学です。人類の持続的発展が自明でなくなった現在、狭い利害にとらわれず個人の未来を人類全体の未来と重ね合わせて考えられる真の自由な知性を持つ(自由な市民)が今こそ求められています。RSSCでの学びは、学部の全学共通科目の履修を通して立教リベラルアーツの精神に触れ、自分と社会を見つめ直してより大所高所からすべてを俯瞰し、新しい道を拓く力を身につけることにつながるのです。

## RSSCの一年 さまざまな学びの場

RSSC 受講生として1年を過ごす中で、授業以外にも**たくさん**の学びのチャンスがあります。

その一つとして、講演会があります。立教大学では、毎月いろいろな講演会が開催されており、RSSC 受講生が参加できるものもあります。今年度オンライン開催のものでは、公開講演会「第3回全国 ESD・SDGs\*自治体会議-コロナ危機を持続可能な地域創生に向けたチャンスに変える-」、公開シンポジウム「AI と倫理」などが開催されました。また、公開シンポジウム「グローバル社会で『生き抜く力』を育てる外国語教育」では、ZOOM 上で基調講演、パネルディスカッションが行われ、「これからの時代に子どもたちがたくましく生き抜く力を育成するために、外国語教育が果たすべき役割について考える」というテーマに対して、様々な視点から話が繰り広げられていました。このように、立教大学の各学部や研究所が主催となっている講演会では、多彩なテーマのシンポジウム

があり、興味のある講演会に参加して、知識や理解を深めることができます。また、講演会への参加がきっかけとなり、新たな興味分野の発見にも繋がります。

次に、「としまコミュニティ大学」講座も学びのチャンスの一つとして挙げられます。この講座は、豊島区と連携協定を結んだ私立7大学と豊島区が協働して開講している講座です。特に「一般公開講座」では、各大学の特色ある講座が開講されており、更なる学びを求めて受講する RSSC 受講生もいるようです。今年度は、これら講演会や講座に関して、残念ながら中止となってしまったものもありましたが、現在は、このコロナ禍においても学びの場を提供し続けるため、オンラインで開催するなど、それぞれが創意工夫を重ねています。

\*ESD :持続可能な開発のための教育

SDGs :持続可能な開発目標

次回は、「RSSC のクリスマス」を予定しています。

## RSSC 事務室から、キャンパス便り

11 月秋を迎えると、池袋キャンパスの本館やチャペルを覆うツタ(アイビー)、4号館前の鈴懸(プラタナス)の並木道の木々が色付いてきます。本館のツツタは秋には葉を落とします。そのため、いつからか「新入生はツツタの枯れる秋までに恋人ができないと4年間ずっとできないまま」と言い伝えられるようになりました。



## 池袋キャンパスの赤レンガ

大正期に造られた池袋キャンパスを象徴するレンガ建造物は、「フランス積み」と呼ばれる一段に長手面と小口面とが交互に並ぶ組積法で構築されています。フランス積みは、レンガをその都度互い違いに施工しなくてはならず非常に手間がかかり、明治中期以降はほとんど用いられていません。しかし、大正期になってあえて本学の建物に採用したのは、完成した時に装飾面で一番優れている事を見通してのことだったといえます。



## 新型コロナウイルス感染症：

ワクチンも特効薬もない今、  
私たちにできること

RSSC 教員  
立教大学理学部教授 松山 伸一



季節性インフルエンザ、かぜ、細菌性肺炎に加えて、今年の冬は新型コロナウイルス感染症にも気をつけなければなりません。これらの感染症に対する予防法は共通しています。3密（密閉・密集・密着）の回避、手洗い、マスクの着用、換気、清掃・消毒などです。特に、60歳以上の方や基礎疾患（高血圧、糖尿病、心血管疾患、呼吸器疾患、腎疾患など）をもつ方は、病原体が体内に侵入しないように予防を徹底して日常生活を送りましょう。

それでも侵入してきた病原体に対峙するのが3つのバリアを備えた免疫です。第1のバリア

は粘膜免疫。鼻・口・のど・気管の粘膜細胞が、攻撃物質を含む粘液を分泌して病原体の侵入を阻止します。しっかり咀嚼して唾液を出し、鼻呼吸することが大切です。ドライマウスや口呼吸では粘膜が干からびてバリア機能を発揮できません。第2のバリアは自然免疫。生まれながらにもっている免疫で、マクロファージなどの免疫細胞が病原体なら何でも攻撃します。第3のバリアは獲得免疫。過去に侵入した病原体に対する免疫で、抗体を作って特定の病原体だけを集中攻撃します。

結核予防のBCGワクチン接種が義務化されている国では、新型コロナウイルス感染症の罹患率と死亡率が低いと報告されています。これは、BCGワクチンによって自然免疫が訓練・強化された結果、結核だけでなくそれ以外の感染症の発症と重症化が抑制されたことを示唆しています。さらに、このような効果はBCG以外のワクチン接種でも得られるのではないかと考えられています。シニアに推奨されている肺炎球菌ワクチン、インフルエンザワクチン、带状疱疹ワクチンなどを接種すれば、それぞれの病気の発症を防ぐとともに、自然免疫の活性化も期待できます。新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスは、ウイルス性肺炎だけでなく、細菌性肺炎も引き起こしますので、特に肺炎球菌ワクチンとインフルエンザワクチンの接種はこのコロナ禍において重要性が増しています。ワクチンの副反応に留意された上で検討されてはいかがでしょうか。

私の授業では、「免疫の司令塔である腸の環境を整える食物繊維を含め、すべての栄養素が免疫を支えているので、満遍なく食事から摂る必要がある。」とお話しています。その上で、あえてサプリメントをひとつと言われれば、迷わずビタミンDをおすすめします。ビタミンDは免疫に深く関与しており、欠乏者のサプリメント摂取が急性呼吸器感染症に有効であることは、すでにエビデンスレベルの高い論文として数多く発表されています。また、血中ビタミンD濃度が高いと新型コロナウイルス感染症の罹患率と死亡率が低いという報告も出はじめています。外出自粛、紫外線忌避、美白文化、ダイエット、魚離れなどによって、今や多くの日本人が欠乏状態にあるビタミンD。特に紫外線が弱くなる冬場は欠乏に拍車がかかりますので、気になる方は、魚・マイタケ・日光浴

（外出程度でよい）とともに、ビタミンDサプリメントをお役立てください。

新型コロナウイルス感染症に対するワクチンや特効薬がない今、私たちにできることは、ウイルスを遠ざけるとともに、ウイルスが入ってきても負けない体を作ることです。ささやかながらも効果の期待できることを一つひとつ積み重ねて、コロナ禍を乗り切りましょう。



<教員専門分野>  
生命科学